

明治九年九月廿九日

幹事

第二課長

別紙連白二通多き為に
附一可然表未向也
為収社

第七百十四号 明治九年九月廿八日受付ハ情永省

豫謗律新聞條例及本年太政官第九
十八号布告ハ不條程ナル者ニ付改良并廢止
スヘキノ建言

収聴

第七百十四号

明治八年六月二十八日發行讒謗律新聞紙
條例及明治九年七月五日太政官第九十八
號ノ布告ハ不條理ナル者ニ付キ改良并ニ
廃止スベキノ建言

元 著 附

明治八年六月二十八日發行謔謗律新聞紙條
例及明治九年七月五日太政官第九十八号ノ
布告ハ不條理ナル者ニ付改良並ニ廢止スヘキ
ノ建言

石川縣越前國坂井郡波寄村農杉田仙十
郎長男當時東京新富町三丁目宅番地
金親萬石衛門方寓

平民 杉田定一

当齡二十五年四月

誠惶々々草莽ノ賤民 杉田定一 謹シテ白ス人ト

メ國ノ典刑ニ觸レ誰カ慚悔ノ心ヲ生ゼザラン
然ルニ定一今春新聞紙條例ニ觸レ六月ノ禁
獄ヲ命セラレ十有八旬ノ苦楚屈辱ヲ鉄欄重
鎖ノ裏ニ嘗ルト虽モ慚悔心ノ怡トメ生ゼザルナ
リ因テ意ヲ上帝我ニハ良心ヲ與ヘザル歟傍ラ
同罪ノ諸囚ヲ觀ルニ各々ホタ怙然慚悔ノ心ヲ
抱カザルニ似タリ益々疑ニ勝ヘズ一日新聞紙條
例ニ誘ニ謗律國安妨害禁停ノ布告ヲ取リ潜
心平氣及覆熟視スルニ該律例布告ハ盡ク不條
理ニメ立法ノ真理ニ悖ル者ナリ茲ニ於テヤ初テ

我が慚悔ノ心ヲ生ゼザル所以ノ理ヲ了リ胸中ノ
疑團釋然タリ夫レ政府人ノ慚悔心ヲ振撼スルニ
足ザル如斯キ不條理ノ法ヲ行ハテ可ナル乎必ズ
不可ナルベシ因テ今其ノ不條理ノ處ヲ一々尤
ニ辨明シ以テ其癢止スベキ者ハ決然之ヲ癢止
シ其改良スヘキ者ハ速ニ之ヲ改良セラレンコトヲ
冀望スルナリ嗚呼三千餘万ノ人民誰カ日本國
裏ノ人民ニ非ザラン均ク是レ日本國裏ノ人民
ニメ獨リ新聞記者如斯キ苛訟酷罰ニ罹ル豈
寛ナラザランヤ豈傷シカラザランヤ

説謗律ノ駁議

第一條 凡ソ事實ノ有無ヲ論ゼズ人ノ榮譽ヲ害スベキノ行事ヲ擅發公布スル者之ヲ謔毀トス云々

駁議 説謗律ハ人ノ謔謗ヲ禁止シ人ノ榮譽ヲ保護スル爲ニ設ケル者ナラン然ルニ該条ニ事實ノ有無ヲ論ゼズトアリ是レ愚ノ不解セザル所ナリ今夫レ生平方正謹愼ニモ毫モ缺失ナキ人ヲ淫褻猥雜ノ行事アリト擅發公布スルハ則チ人ヲ謔謗シ人ノ榮譽ヲ害スル

者ナルガ故ヘ之ヲ罰スルハ道理ニ於テ不可ナルヲナレ今之ニ反シ現在惡事醜行ノ實アル人ヲ彼ハ如斯基不廉恥ノ所行ヲ爲セシト論ズルハ則チ人ヲ謔謗スルニ非ズレテ人ノ惡行ヲ直言スル者ナリ又論ゼラル者ハ自己ニ惡事醜行ノ實體アルニ縁リテ汚名ノ虚影ヲ生ゼシナリ決シテ榮譽ヲ害セラレシニ非ズ然ルニ今其ノ直言者ヲ人ヲ謔謗スルトメ之ヲ罰シ惡行ヲ爲ス者ヲ榮譽ヲ害セラルト爲シ之ヲ保護スル時ハ該律ハ全ク人ノ謔謗ヲ禁止シ人ノ

榮譽ヲ保護スル為ニ設ケレ律ニ非スレテ半
ハ直言者ヲ誣壓シ人ヲ詆謗スルノ冤罪ヲ蒙
ラシメ惡人ヲ曲庇シテ榮譽アル人ノ美名ヲ
蒙ラシメン為ニ設ケレ者ナリ如斯キ私曲偏
頗ノ律ハ断然改正事實ノ有無ノ有ノ字ヲ削
ラズンバアル可ラス

議者曰新聞記者ニ於テ人ノ刑法外ノ惡事ヲ言
ベキノ權利ナシト定一曰ク有リ如何ントナレバ
新聞記者ノ善人ノ善ヲ賞シ以テ人ノ善ヲ為テ
勸メ惡人ノ惡ヲ懲シ以テ人ノ惡ヲ為テ警ムル

ハ其任ナリ故ニ人ノ刑法外ノ惡事ヲ言ベキノ
權利アリ然リ而メ今其ノ權利ノ有無ニ管ス
人ノ刑法外ノ惡事ヲ言テ禁バルト允スト何
レカ利何レカ害ヲ論ゼンニ之ヲ允ス時ハ世人
已ノ惡事ヲ新聞紙ニ掲載ヒラルヲ懼レ自然品
行ヲ正クレ廉恥ヲ尊ノ風ニ趣キ利アツテ害
ナレ之ヲ禁スル時ハ惡人ハ刑法外ノ惡事ニ至
リテハ傲然忌憚ナク之ヲ行ヒ人ノ毫モ之ヲ
懲戒スルアレバ已レニ有リモセヌ榮譽ヲ害セラル
ト唱ヒ之ヲ官ニ告訴シ非ヲ遂ゲ過ヲ羞ザルノ

陋習ニ陥リ害アツテ利ナレ今害アツテ利ナ
キニ就クヨリ利アツテ害ナキニ遵フノ其ノ利タ
ル一三尺ノ童子ト虽モ之ヲ辨知スベシ況ンヤ
方今我國教化未ダ洽子カラズ人民脩身ノ道
如何ヲ知ラズ法律未ダ全備スルニアラズ故ニ
罰スベキノ惡事ニメ漏レノ者無トセス茲ヲ以テ
今日ノ時勢ニ於テモ新聞記者ヲシテ刑法外
ノ惡事ヲ懲戒セシメ以テ政教及バザル處ヲ
裨補セシメズンバアラス

第四條 官吏ノ職務ニ関シ謬毀スル者ハ禁獄

十日以上二年以下罰金拾圓以上五百圓以下云々
第五條 華士族平民ニ對スルヲ論ヒズ謬毀スル
者ハ禁獄七日以上一年半以下罰金五圓以上三百
圓以下云々

駁議 官吏ト華士族平民トハ人間ト禽獸ノ
別アルゴトキニ非ズ均ク是レ同人生ナリ均ク
是レ同人生ニメ官吏ヲ謬毀スル罪ハ重クシ華
士族平民ヲ謬毀スル罰ハ輕クスルノ理ナレ上ハ
勅任官ヲ謬毀スルモ下ハ水飲百姓ヲ誹謗スルモ
其罰ハ同一ニセズンバアラス

該律ノ謔謗ハ改定律ノ罵詈ト其種類彷彿タル者ナリ然レテ改定律ノ罵詈ハ言語上ニテ人ヲ罵詈スル者ヲ稱シ該律ノ謔謗ハ文章上ニテ人ヲ謔謗シ以テ公布スル者ヲ目スルナリ今罵詈ト謔謗ト罪輕重ヲ比較セバ謔謗ハ罵詈ヨリ重シ如何トナレバ謔謗ハ文章ヲ以テ人ノ惡事ヲ摘發公布スル者故ハ謔謗セラル者ハ名譽ヲ世間ニ失スルニ至ル罵詈ハ言語ヲ以テ人ヲ罵リ罵詈セラル者ノ汚辱ヲ眼前ノミ受クルト異ナリ故ニ謔謗ハ罵詈ヨリ其罪重シ因テ

人ヲ謔謗スル者ハ凡人罵詈律ニ等ヲ加ヘ禁獄二十日ニ處シテ可ナリ豈二年并ニ一年半以下禁獄五百圓及三百圓ヲ出ザル至重ノ罰金ニ處スベキ罪ナランヤ愚考ルニ是レ全ク政府ノ姦臣輩已ノ非ヲ飾リ惡ヲ掩ハンガ為ノ人民ノ正言直筆ヲ箝制セント欲シ如斯キ至惡ノ禁獄至重ノ罰金ヲ設ケ以テ人民ヲ恐嚇セシナラン其心情惡ムベレ唾スベレ雖然モ啗ニ以テ二条ノミナラズ他モ盡ク然リ断然滌蕩改正セスンバアラズ

新聞紙條例ノ駁議

第一条 凡ソ新聞紙允准ヲ得ズシテ発行スル者ハ発行ヲ禁止シ持主若クハ社主及編輯人印刷人各々罰金百円ヲ科ス其偽テ官准ノ名ヲ冒ス者ハ云々

駁議 官准ヲ得ズ是ニ官准ヲ偽リテ発行スル罪ハ社主ニ在リテ編輯人印刷人ノ管スル所ニ非ズ故ニ編輯人并ニ印刷人ハ連罰スベカラズ之ヲ連罰スルハ不條理ナリ改良スベシ

第二条

⑤ 印刷人ノ姓名住所ヲ云々

駁議 印刷人ハ新聞紙上ノ責ニ任スベキ者ニ非サルガ故ハ舉ルニ及バズル可シ

同条 右ノ五目中詐謬アル者ハ発行ヲ禁止云々
駁議 右ノ五目ヲ書出スルニ謬ハ蓋レ有之ン歟モ保証シガタケレハ詐ハ必ズ無之ン假令一朝知ラズタタタ誤謬アル共輕過ナリ之ヲ訖責スルノミニメ可ナリ豈発行ヲ禁止若クハ停止百円以下拾円以上ノ罰金ヲ取ル等ノ重罪ナラシヤ實ニ該罰則ハ不當不理輕重ノ別ナク權衡

ノ度ヲ失シ私意ニ任セテ設ケレ者ナリ断然
廢滅セズンバアラス

第三條 十五日内ニ新定セル編輯人若クハ云々
駁議 該条ハ第六條アレガ故ヘ無クシテ可ナリ
同条 其他第二條願書ニ載スベキノ目ニ於テ
一ノ變更アル片ハ云々

駁議 願書ノ奉目變更アルトモ新聞紙ハ発
兌毎ニ必ス官廳ヘ納ル者故ヘ其ノ詳細ヲ該
新聞紙ニ記載シ別ニ官廳ヘ届出ルニ及ハザル
ベシ

第六條 毎紙毎卷ノ尾ニ編輯人印刷人名ヲ署
シ云々

駁議 新聞紙上一切ノ事ハ編輯人ノ責任ニメ
印刷人ノ管スル所ニアラズ故ニ印刷人ハ名ヲ署
セズシテ可ナリ

第七條 編輯人首ヲ以テ論シ筆者ハ後ヲ以テ論ス
持主若クハ社主情ヲ知ル者ハ編輯署名ノ人ト同ク
論ズ

駁議 編輯長ハ該新聞紙編輯上ノ事ヲ其ノ一
身ニテ悉皆擔任セシムル為メ設ケ置ク者故ヘ同

社中他ノ編輯人律例ニ触ル、ト雖モ筆者例
ヲ以テ論シ且持主若クハ社主情ヲ知ルトモ
テ罰ス可ラズ

第九條 外國新聞紙ヲ翻譯ノ其事第十二條以下
ノ禁ヲ犯シ若クハ誹謗律ヲ犯シタルハ譯者其
責ニ任ズベキトス

駁議 同社中ノ譯者其ノ譯スル所ノ文章律
例ニ觸ル、モ其ノ律例ニ觸ル、ス、章ヲ該新聞
紙ニ掲載スルハ編輯長ノ過ナリ因テ譯者ハ
罰セザルベシ

第十一條 辨白書若クハ改正ヲ求ムルノ書ヲ寄
スルハ其書ヲ受取リシヨリ直ニ其次号ニ刷出ス
ベシ

駁議 次号ハ五日間(五日間は休業ノ時ハト改
ムベシ)如何トナレバ新聞ハ明日發賣スル者ハ今
日活版ヲ組立置ク者故今日辨白若クハ改正
書ヲ持來ルト雖モ既ニ活版ヲ組立ル後ナレバ
之ヲ直ニ明日ノ新聞ニ刷出スルヲ得ズ是等ノ
已ヲ得ザル事故多々アルヲ以テナリ

第十二條 人ヲ教唆云々

駁議 該教唆ハ如何ナル種類ノ者ヲ指シテ
教唆ト為ス耶律文簡易范乎トメ及刑俸ヲ
見ルヲ得ズ夫レ律文ハ明白ノ上ニモ明白詳悉
ノ上ニモ詳悉ヲ要シ人民ヲメ一目瞭然タラシメ
ンコト本旨トスベキ者ナリ然ルニ如斯キ曖昧
模糊風ヲ捉ミ影ヲ捕フルゴトキ律ヲ設ケ彼
モ教唆ナリ是モ教唆ナリト何ンデモ箇デモ教
唆ノ一網中ニ收羅シ盡ント欲ス其猾詐モ亦
々甚シ嗚呼人民ノ狀等ノ律ニ罹リ罰セラル、
者豈不幸ナラザランヤ之レヲモ瘡セズンバ人

民保護ノ道何ヲ以テ立タン

第十三条 政府ヲ衰壞シ國家ヲ顛覆スルノ論ヲ
載セム々

駁議 政府ハ何ノ為ニ設クル耶人民ノ幸福
安全ヲ保護スル為ニ設ルナリ若シ政府ニメ人
民ノ幸福安全ヲ保護セズ苛法酷刑重税ヲ以
テ人民ヲ凌虐シ人民之ヲ屢々政府ニ苦訴忠
告スト虽モ政府之ヲ用ヒズ及テ之ヲ殺殘シ政
府覆ラズンバ國家亡滅シ姦吏斃レズンバ人民
糜爛スルノ境ニ運ビ万已ヲ得ザル時ハ人民正

々ノ陣堂々ノ旗ヲ以テ一撃ノ下ニ其ノ暴政府
ヲ絶滅シ更ニ良政府ヲ設クベキノ推義アリ
故ニ人民已ヲ得ザルノ時政府ヲ顛覆スル論
ヲ吐クモ政府之ヲ禁ズルノ權ナレ因テ該條例
ハ廃止スベシ

議者曰ク人民已ヲ得ザルノ時暴政府ヲ顛覆
シ更ニ良政府ヲ設クルハ條理上ニ於テ間然ナレ
ト虽モ若シ之ヲ允ス片ハ不逞ノ徒私意ヲ遂
ニ為ノ政府ノ苛法虐制ヲ口實ト為シ顛覆ス
ベカラザル政府ヲ顛覆スベキト唱ヒ民心ヲ煽動

シ國安ヲ紊乱スル時ハ其害淺シナラズ故ニ顛
覆論ハ允ス可ラスト 定一曰ク然リ然リト虽モ
今不逞ノ徒ノ害ヲ懼レ顛覆論ヲ禁ズル片ハ
政府ノ其臣僚吏ハ傲然忌憚ナク益々苛法虐
制ヲ逞クシ人民ハ無限ノ抑壓ヲ受ルト虽モ
其冤ヲ泄ス所ナク其ノ害タルヤ亦タ淺シナラズ
故ニ人民已ヲ得ザルノ時ハ政府ヲ警告スル為メ
公然新聞紙上ニ向ツテ顛覆論ヲ吐ク允シ唯ダ
實事上ニ於テ政府ヲ顛覆スルヲ禁ズベシ然ル
時ハ不逞ノ徒隙ニ投シ良民ヲ煽惑スルノ害ナカ

ルベシ假令有ルモ之ヲ罰スレバ可ナリ然リトモ
モ人民冤鬱ノ積リ憤懣ノ溢ルハ一心熱血ノ
淋漓ヲ以テ虐制ノ炎焰ヲ撲滅セント欲ルニ当
リテヤ其勢震蕩飄忽積水ノ万丈ノ堤ヲ決シ
颶風ノ沙漠ヲ捲ガ如ク瑣々タル禁令罰則ノ
停止シ得ル所ニ非ルベシ

第十四条 成法ヲ誹毀シテ國民法ニ遵フノ義ヲ
亂リ云々

駁議 大日本政府ノ賢明官吏ハ方今ノ法度
ヲ以テ盡善完美一瑕釁ナク千載不拔ノ者ト

思ハル耶果シテ然ラバ愚モ亦タ甚シ夫レ法
度ハ政府ニ於テ善ナリトシ設ケシモ人民ニ於テ
不善ナルアリ昨日是タリシモ今日非トナリ時
勢ノ變遷民智ノ上進ニ順ツテ改良スベキ者メ
決シテ千載不拔ノ者ニ非ルナリ故ニ人民スル者
ハ政府ノ號令是トナク非トナク惟タ是レ遵ハ
ズ法度ニ苟モ害アレバ之ヲ辯駁シ失アレバ之ヲ誹
毀シ以テ法度ヲ盡善完美ノ境ニ至ラシメンヲ
努力セズンバアラス是レ人民ノ義務ナリ政府
之ヲ獎勵スベク之ヲ禁遏スルノ權利ナレ若シ

之ヲ禁遏スル時ハ法度ノ改良シ国ノ文明ニ
進ム所以ノ路壅塞スベシ故ニ該条例ハ斷然
廢止セズンバアラス昔ハ我朝誹謗ノ函ヲ設
ケ人民ヲメ政治ノ得失ヲ極言痛論セシメ以テ
治國ノ資ト為ス今也成法誹毀ノ条例ヲ設ケ
人民ノ成法ノ利害ヲ辨駁可否スルヲ罰シ以テ
虐制ヲ行フノ用ト為ス今日文明ノ世ヲ以テ却
テ古昔矇昧ノ時ニ及バズ豈ニ愧ザル可シヤ噫
同 条 顯ハニ刑律ニ觸レタルノ罪犯ヲ曲庇ス
ルノ論ヲ為ス者ハ法々

駁議 該条ヲ視ルニ政府ノ刑律ニハ不當ノ刑
律ナリ法官ノ審判ニハ不當ノ審判ナレ故ニ人
民タル者ハ刑律審判上ニ口吻ヲ挾ム可ラズト
為ス者ノ如シ 是ニ以テ否ズ政府ニ不當ノ
刑律ナキ能ハズ故ニ法律ノ改良アリ法官ニ不當
ノ審判ナキヲ免レズ故ニ故失出入ノ罰アリ今
政府ニ不當ノ刑律法官ニ不當ノ處置アルハ
人民タル者飽マデ之ヲ論駁セズンバアラス人民
之ヲ論駁スルハ則テ人民ノ義務ニメ刑律審
判ノ善ニ進ミ良ニ改ル所以ノ根源ナリ政府其

又根源ヲ壅蔽スルノ理ナレ故ニ該條ハ廢セズレバアラズ

第十五條 斷獄下調及裁判官ノ議事ヲ載ルヲ得ズ

駁議 夫レ斷獄下調及審判ノ議事ヲ新聞紙上ニ掲載スルト如何ナル害アリト做ス耶 意フニ之ヲ新聞紙等ニ攀上レ其ノ下調ノ當不當議事ノ理不理ヲ討論スレバ及テ判決ノ公平ニ赴ク所以ノ基ト爲リ利アリテ害ナカルニ該條ハ廢ス可レ

第十六條 院省使廳ノ許可ヲ經ズレテ上書建白ヲ載スルヲ得ズム々

駁議 許可スル所ノ建白ハ政府ノ善且ツ害ナレトメ採用セレ者ニメ許可セザル所ノ上書ハ政府ノ不善且ツ害アリトメ採用セザル者ナラン然リ而メ政府ノ採用スル所ノ者ハ必ず善ニメ且ツ害ナク採用セザル所ノ者ハ必ず不善ニメ且ツ害アル耶 定一熟々古今ノ上書建白ヲ視察スルニ其採用セラル所ノ者ハ多ハ阿諛迂濶ニメ暗主私意ニ適スル者ナリ其ノ採用セラレザル所ノ者ハ

多クハ忠直剴切ニメ權臣ノ耳ニ達フ者ナリ
是ニ因テ之ヲ觀ル時ハ政府ノ採用スル所ノ上
書必ズ善ニメ且ツ無害ナリト言ヒ難ク政府
採用セサル所ノ建白ハ必ズ不善ニメ且ツ有害
ナリト称スベカラズ政府ノ採用スル所トモ不
善且ツ有害ノ者アルヲ免レガタク政府ノ採用
セサル所トモ善且ツ無害ノ者アルヲ無トセザ
ルナリ然ルニ今特リ政府ノ善ナリトシ採用ス
ル所ノ建白ヲ無害ナリトシテ之ヲ新紙ニ載ル
允レ政府ノ不善ナリトシ採用セサル所ノ上書

ヲ有害ナリトメ之ヲ新紙ニ載スルヲ禁ズルハ甚ダ
不公平ナリ其採用不採用ヲ問ハズ一切ノ建言
盡ク新聞紙上ニ掲載スルヲ允スベレ況ンヤ上
書建白ハ人民國家ノ為メ其忠慮意見ヲ吐露
スル者ニメ其事柄タルヤ全國人民ノ頭上ニ管係
スル者ナル故ヘ卑リ之ヲ政府ニ告グブレテ下同
胞ノ人民ニ示レ其ノ利害得失ヲ研磨討論セ
ズンバアル可ラス

太政官第九十八号布告ノ駁議

布告 已ニ准允ヲ受ケタル新聞紙雜誌雜報ノ
國安ヲ妨害スト認メラルモノハ内務省ニ於テ
其發行ヲ禁止又ハ停止スベシ

駁議 如何ナル文章ヲ以テ國安ヲ妨害スト
認ル耶 一禁止セラレシ所ノ評論湖海草
莽ノ三雜誌ヲ閱スルニ各々國安ヲ維持セン
ト欲シ政府ノ苛法弊事ヲ痛論切言セシ者ニ
メ政府ノ暴政ヲ行フノ障礙トナルモ決メ國安
ヲ妨害スル者ニハ非ルナリ然ルニ反テ國安ヲ
妨害スト認メラレ禁止ヲ受ケタリ是ニ因テ

之ヲ察スレバ該布告ハ陽ニ國安ノ妨害ヲ防
禦スル名ヲ飾リ陰ニ暴政府ノ安寧ヲ保持
スル為ニ設ケレナリ然ラバ該布告ハ則チ眞ノ
國安ヲ妨害スル者ナルガ故ヘ永久之ヲ禁止ス
可シ

誠惶々々 定一 謹ンデ惟ルニ正論讜議ノ宇内ニ在
ル也猶ホ大氣ノ空中ニ流通シ百川ノ海ニ朝宗シ
休マザルガゴトシ頃々タル禁令罰則ノ停止シ得ル
所ニ非ルナリ我聖明ナル大日本政府ハ明治八
年六月二十八日詔諭傍律新聞紙條例ヲ發行以

還新聞記者ハ口吻ヲ政治ノ利害得失官吏ノ
正邪曲直ニ挾マザル耶 定一草莽間ニ在リ熟々
爾來ノ形況ヲ視察スルニ新聞記者ハ反テ憤懣
激動シ益々官吏ノ正邪曲直政治ノ利害得失ヲ
辨論シ各自邦國ノ為ニ一身ヲ顧ミズ紛々先ヲ
競テ縛ニ就キ其勢風水ノ湧キ雷霆ノ撃チ山
岳ノ靡スル如ク底止スベカラザルニ至リキ茲ニ
於テヤ政府新聞記者ノ百敗屈セズ万挫愈壯
ナルヲ憤リ更ニ復タ一層ノ壓制ヲ設ケ最モ激
論壯譏ヲ鼓スルノ新紙ヲ禁止スルニ至レリ然リ

ト虽モ天下ノ新聞記者ノ政治ノ利害得失官吏ノ
正邪曲直ヲ論スル依然未ダ敢テ已マザルナリ是レ究
竟人民ノ無知ニメ法ヲ懼レザルヨリ然ル耶 曰ク否
人正論譏議ノ項々タル禁令罰則ヲ以テ停止得
ベカラザル所以ノ徴據ナリ嗚呼正論譏議ノ勢力
モ亦タ盛ンナル哉 今也海内ノ人民少ク智識ノ
開クル者ハ該律例及本年七月五日ノ禁停布告
ヲ視テ不條理ト做シ新聞記者ノ罪ヲ冤ナリトシ
之ガ為ニ切齒奮腕セザル者一人ナレ斯ノ如ク天下
ノ公議輿論ニ於テ不條理ナリトスル律例布告ヲ

尚ホ汲々乎トメ之ヲ用ヒ停止スベカラザル正論讞
議ヲ停止セント欲シ以テ民怨ヲ買フハ豈ニ愚モ
亦タ甚レカラズヤ維新清明ノ今日ニハ甚ダ解
セザル所ナリ定一意見ニ是レ必ズ

天皇陛下ノ聖意ニ出ルニ非ズメ廟堂ニ二三ノ玄臣
秦ノ李斯漢ノ張湯其人ノ如キ者アリ君聰ヲ掩ヒ私
意ヲ擅ニセシメ為メ設ケシ者ナラン姦臣ハ魑魅ナリ魑魅
ナリ固ヨリ憎ムニ足ラズト云モ聖明ナル

明治天皇陛下ヲメ玄臣ノ私意ヲ遂ゲレメンガ為
メ不合理的ナル謗謗律新聞紙條例禁停ノ布告ヲ

設ケ天下ノ正論讞議ヲ抑壓シ國家衰亡ノ兆ヲ
招クノ醜名ヲ千載青史ニ流サレム實ニ惜ムベキ
ナリ然ルヲ況ンヤ該律例布告ハ立法ノ英理ニ
悖リ政府ノ職分ニ於テ万々為ス可ラザル者ニ
於テオヤ仰キ庶幾クハ今月今日定一ガ該建言
ヲ捧グル後六十日間ニメ新聞紙條例謗謗律禁
停ノ布告ヲ改良并ニ廢止シ從來ノ過ヲ人民謝シ
政府人民ト親睦共和以テ

皇統ヲ無窮ニ傳ヘ國家ヲ海岳ノ安キニ置シ
トヲ定一愛憤激切ノ至リニ任ヘズ誠惶謹言

明治九年九月二十八日

杉田定

元老院議長有栖川熾仁殿